



テラ・デコール 施工要領書

きれいな仕上りのためにお読み下さい

I N D E X

1. はじめに（テラ・デコールの特徴）
2. 施工を始める前の注意事項
3. 施工時の周辺環境
4. 適切な下地の処理
5. ご利用時の下地処理方法
 - ※新築工事の場合
 - ※リフォーム工事の場合
6. テラ・デコールの仕上げ施工にあたって
7. 各種仕上げの方法
8. 使用上の注意
9. テラ・デコールのお手入れの仕方

1. はじめに（テラ・デコールの特徴）

- ・ ペースト状の為、現場で粉から練る必要がなく施工が簡単な塗り壁材です。
- ・ プラスターボードはもちろん、ビニールクロスの上からでも塗れます。
- ・ 薄塗りを推奨していますが、4ミリ以上の厚塗り(2度塗り)にも対応できます。
- ・ 色合わせが簡単で色ムラ等の心配がありません。
- ・ ほとんど無臭の材料ですから、施工中も安心してご使用いただけます。
- ・ 本品は内装専用の仕上げ材です。外装にはご使用いただけません。

2. 施工を始める前の注意事項

- ・ 施工前には周辺に十分な養生をお願い致します。
- ・ 施工する道具は、他の材料が付着していないきれいな道具をご使用下さい。
- ・ 材料が養生をしていない場所に飛んだ場合は、速やかに拭き取って下さい。
- ・ 季節や天気等、気温・湿度を考慮し、材料に水を加え攪拌機で5分以上よく混ぜ合わせて下さい。（通常1ℓ～2ℓ程度）
- ・ 施工後は速やかに道具を清掃して下さい。

3. 施工時の周辺環境

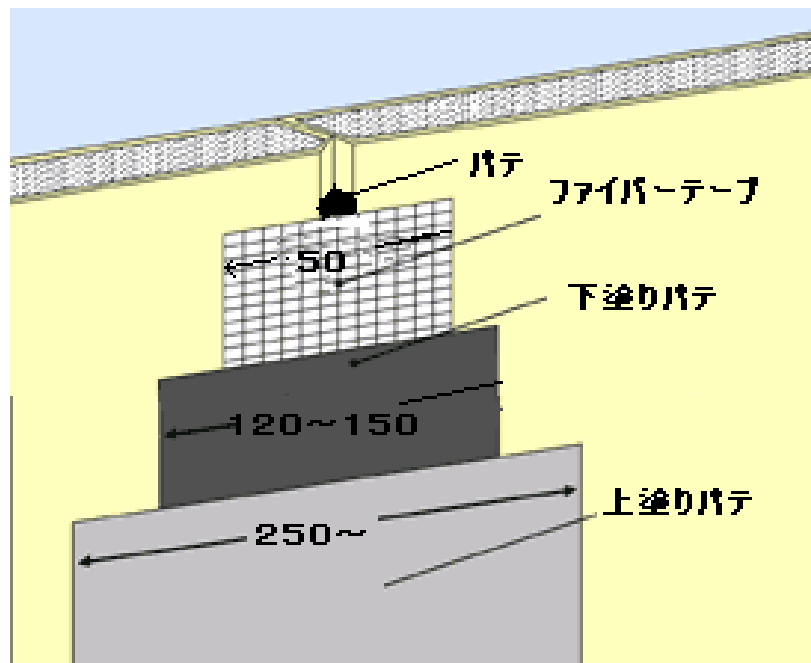
※施工の際、下記のような状況時は施工を見合わせて下さい。

- ・ 気温が摂氏5度以下、もしくは湿度が80%以上の場合。
- ・ 作業場所に飛散物やほこりが多い場合。
- ・ 塗布面の温度が異常に高く、塗った時に泡が生じる場合。
- ・ 下地の処理が不十分な場合。

4. 適切な下地の処理

- ・ 下地に付着しているゴミ・汚れは、ブラシ・サンドペーパー・ウエス等で取り除き、乾燥させて下さい。
- ・ 鉄部等でサビの発生が予想される場合は、サビ止め処理を行って下さい。
- ・ プラスターボードはすき間の無い様に貼り込んで下さい。
- ・ ボードは3' x 8' あるいは3' x 9' サイズを推奨致しております。横の目地が少なくなるので、クラック防止になります。
- ・ もし、3' x 6' サイズのボードをお使いの場合は、受け木の上で継ぎ足し、15㌢~20㌢ピッチでビス止めをして下さい。
- ・ ドア、窓枠の縦枠に沿ってボードのジョイント部分がこない様にして下さい。開け閉めの衝撃でクラックが入りやすくなります。

ジョイント部図解



5. ご利用時の下地処理方法

※新築工事の場合（基本的には塗装下地を作る）

＜プラスターボードの場合＞

- ・ ボードのジョイント部分、及びビス頭を下地パテでしごきながら埋めてから乾燥させます。
- ・ 乾燥したらジョイント部分をファイバーテープで補強します。
- ・ ファイバーテープをパテで覆い隠す様に(幅12㍉～15㍉)しごき塗りをしてから乾燥させます。この時、パテが厚くならない様にご注意下さい。
- ・ マスキングテープを窓枠、ドア枠、廻り縁等に1㍉～2㍉程度のすき間を作りながら貼ります。巾木には床の養生を兼ねてビニール付の養生テープを貼ります。(すき間は塗り厚によって調整して下さい。)
- ・ 乾燥後、幅25㍉程度の仕上げパテをし、やせた部分やテープの透けている部分を平らにして下さい。
- ・ 出、入隅もファイバーテープを貼りパテを塗って下さい。コーナービートはより有効です。入隅には状況により木工用ボンドを塗って下さい。

＜コンパネ合板等の場合＞

- ・ 前記の様にジョイント処理を行います。
- ・ 灰汁（アク）止めシーラーを塗布します。
- ・ 状況によっては左官下地（全パテ処理）をお願いします。

＜コンクリート・モルタル下地の場合＞

- ・ 下地の不陸調整をし、コンクリート用シーラーを塗布します。
- ・ 状況によっては左官下地（全パテ処理）をお願いします。

※リフォーム工事の場合

＜既存ビニールクロスの場合＞

- ・ クロスの剥がれや浮きがないか確認して下さい。
- ・ 剥がれや浮きがあったら、その部分をめくりボンド*1で止めて下さい。
(*1・・・セメダイン社製の「かべっこ」等のクロス補修用ボンド)
- ・ クロスのジョイント部や除去部、下地が割れている所はファイバーテープで補強して下さい。
- ・ 全体をパテでしごき、クロスの模様等の不陸を平らにして下さい。
- ・ 基本的には紙クロス、布クロスの上には塗れません。(汚れ等によるアクが浮き出る為、シーラー処理を十分に行い、吸水が止まれば塗れます。)
- ・ もしクロスを剥がしてしまった場合には、裏紙をきれいに剥がし取って下さい。(残っていると仕上げ後の剥がれの原因になります。)
- ・ マンション等でコンクリートに直貼りしている場合には、剥がれやすいのでなるべくクロスを剥がしてから施工して下さい。
- ・ 汚れの激しい場合は拭き取りを入念に行い、シーラー処理を2度行なう等の処置が必要です。

＜既存左官壁の場合＞

- ・ 浸透性下地強化剤で古壁を固めて下さい。
- ・ ボロボロと崩れる古壁の場合は、剥がして不陸を調整して下さい。
- ・ 灰汁（アク）止めシーラーを塗布して下さい。
- ・ 真壁の場合は、プラスターボードを上から貼った方が手間のかからない場合がありますので、施工前にご検討下さい。

※注：ビニールクロス下地やコンパネ下地の場合、塗り付けた時に**気泡**が出る場合があります。気泡が出た場合は直ぐにステンレスコテを左右に動かし気泡を潰し（2～3度繰り返すと気泡は消えます。）その後、パターン付けをして下さい。



ビニールクロスへの上塗り時に出た気泡

6. テラ・デコールの仕上げ施工にあたって

- ◇ 荷姿：20kg入ペール缶
- ◇ 色：原色（テラホワイト）+基本12色（別ボトル、現場にて調合）
- ◇ 仕上げ別施工可能面積：

仕上げパターン	施工可能面積 (20kg/缶)	施工面積 (m ² /kg)	希釈率	備考
コテ塗り (1 $\frac{1}{2}$ 程度)	18~23m ²	0.85~1.1 m ² /kg	5~10%	1回仕上げ
吹き付け (0.5 $\frac{1}{2}$ 程度)	18~23m ²	1.5~2.15 m ² /kg	10~20%	2度吹き

※上記数値は状況によって変動することをご了承下さい。

* 1缶につき約1ℓ～2ℓの水（カラー材含）を加え、十分に攪拌（5分程度）して下さい。

TERRA DÉCOR

7. 各種仕上げの方法

< コテ塗り仕上げ >

- ・ ステンレス製の仕上げ用コテ（0.3㎜程度）で施工して下さい。
- ・ 手板に必要量を取り、よく混ぜながら1㎜程度で均一に塗り付けます。
- ・ 塗り付け後、コテでパターンを付けます。
- ・ ウェーブパターンで1回仕上げを推奨致しております。
- ・ 基本的にコテ押さえは出来ません。
- ・ 薄塗りを推奨致しておりますが、厚塗りにも対応出来ます。（2度塗り）

< 吹き付け仕上げ >

- ・ スプレーガン3.8㎜～5㎜もしくはリシンガン3.8㎜～5㎜の口径タイプのもの*2を使い、2度吹きを基本とします。（水の希釈15%程度）
（*2・・・吹き付けのパターン等により、口径は任意にお選び下さい。）
- ・ 1回目の吹き付けと2回目吹き付けの間隔を最低2時間以上空けて下さい。

8. 使用上の注意

- ◇ 目に入った場合、直ちに清水で15分以上洗い流し、異常がある場合は医師の手当てを受けて下さい。
- ◇ この製品には、物理的及び化学的危険性はありません。
- ◇ 粉塵が大量に発生する場合は、保護マスク・保護眼鏡・保護手袋等を着用して下さい。
- ◇ 廃棄する場合は、容器も含め、その地方の廃棄物処理に適した方法で行って下さい。
- ◇ 保存料を使用していない為、開封後はお早めにご使用下さい。基本的に発注ごとの使い切りを原則として下さい。（ストックはしないで下さい）

9. テラ・デコールのお手入れの仕方

日常生活において付着した汚れ等は、下記の要領で対応して下さい。

種類 \ 方法	消しゴム	メラミンスポンジ	サトウパパー	中性洗剤
鉛筆	◎	○	△	×
ペン・マジック	○	◎	◎	×
手あか	○	◎	△	×
コーヒー・お茶等	×	×	×	×
醤油・ソース等	×	×	×	×

◎・・・きれいになる ○・・・ほぼきれいになる

△・・・多少残る ×・・・きれいにならない

- ・ 基本的に中性洗剤はご使用いただけません。やむを得ずご使用する場合は、こすらずに汚れの上から軽くたたくようにして下さい。
- ・ 上記にて対応できない場合は、タッチアップ材をご使用下さい。
- ・ 色を付けた場合は、補修の時の為に色番号を控えておいて下さい。
- ・ 入隅につきましては、最もクラックが出やすいので、予め樹脂系のコーキング材等で処理しておくことを推奨致しております。
- ・ その他、ご不明な点はお問合わせ下さい。